新潟市アグリパーク要求水準・目標値（評価指標）

視点	評価項目	評価指標　＊令和元年度	令和元年度実績	評価	コメント
市民	入場者数	20万人以上/年	186,965人	C	指標を下回った
		宿泊施設の稼働率　:39%以上/年	34.7%	C	指標を下回った
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者　:27,000人以上/年	22,537人	C	指標を下回った
	新規就農者支援	就農支援プログラムの受講者数　:600人以上/年	1,122人	A	指標を大きく上回った
	6次産業の推進	・食品加工支援講習会の開催　:70回以上/年 ・食品加工支援講習会の受講者　:470人以上/年	・食品加工支援講習会の開催:63回 ・食品加工支援講習会の受講者:505人	A	講習会の実施回数は指標を下回っているが、受講者数が指標を大きく上回っているためAとした
	広報の充実	・HPの情報更新　:20回以上/年 ・アクセス件数　:12万回以上/年	・HPの情報更新　:135回 ・アクセス件数　:123,042回	A	HPの更新回数が指標を大きく上回ったためAとした
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	99.2%	A	指標を大きく上回った
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字なためCとした
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	適正に実施	B	指標通り
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	・防災訓練:2回 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成済	B	指標通り
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講　:1回以上/年	1回	B	指標通り
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者（店舗）等からの調達率　:90%以上	100%	A	指標を大きく上回った
	関係団体・地域との調整	関係機関・地域との連絡調整会議の実施　:各1回以上/年	12回	A	指標を大きく上回った
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ　:延べ1,000人/年以上	703人	C	指標を下回った
	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付　:延べ100人/年以上	51人	C	指標を下回った
	施設の稼働	年中無休	年中無休	B	指標通り
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	指標通り
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修　:1人あたり2回以上/年	3.3回/年	A	指標を大きく上回った
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率　:90%以上	93%	B	指標通り

指定管理者記載欄（アピールしたい事項・未達成項目への改善策等）

令和元年度の総来場者数は186,965人となった。対前年度比で98.8%である。2月末段階では前年度累計を上回っていたが、新型コロナウイルス感染防止対策に伴う3月中の体験・イベント・講座等の中止を主因に前年割れとなった。今後、新型コロナウイルス対策の徹底と新しい生活様式の実践を踏まえたうえで、さらに魅力あるプログラム・イベントの企画と集客確保が課題である。

教育ファーム関係では、学校は延べ180校、9,774人が来園した。前年度と比較して、利用学校は9校（503人）減少した。小学校の利用割合が最も高く、全体の約83%（149校）を占めている。その他の学校種別では幼・保14園（8%）、中学校10校（6%）、特別支援学校6校（3%）である。月別の利用では、5月、6月、9月の利用が多く、3月は新型コロナウィルスの影響により利用中止となった。宿泊利用の学校は、延べ25校で、全利用学校の14%であった。参加した学校からの評価は引き続き高く、満足度も高かった。なお、アンケートで要望があった絵画展（アグリアート展）を開催し、295点の応募作品を展示した。教育ファームの課題として、学校関連では①新規プログラム開発②野菜栽培等にかかるインストラクターの資質向上③分かりやすい提示資料の充実など、一般向けは、①収穫・調理体験の学習プログラム化②冬期間のプログラム開発など、引き続き利用者増と満足度向上に資するべく課題の解決に取り組みたい。

食品加工支援業務関係では、農業の6次産業化のベースとなる食品加工の基礎を学ぶための食品加工講座を63回開催し、延べ505人が受講した。試作のための加工室利用は、過去最高の延べ368回841人が利用し、個別の加工室利用者は82%が農業関係者であった。令和元年度では商品化された製品が33品、一次加工品が11品となり、商品開発品数についても過去最多となった。また、同様に加工技術相談の回数も、過去最多で200回を超えた。今後もニーズに沿った講座の開催、相談事項への適切なアドバイスの提供により、6次産業化支援および利用者増に努めていきたい。

就農支援事業では、通年型の農業塾に26名が受講し、就農相談業務では、常設の相談窓口に新規相談者が8名、就農後の相談者が2名あった。就農体験研修には、果樹栽培コース2名、野菜栽培コース1名が受講した。国も推進している農福連携事業は、9施設延べ51名に、9回延べ27日にわたり障害者の就労に向けた訓練を実施した。農業者の高齢化や担い手不足、障がい者の就労など農業には多様かつ大きな課題があることから、新潟市アグリパークの就農支援事業もそれらに対応した多様な事業展開を今後も行う必要性がある。

施設の周知と誘客を図るべく、地域と施設の特色を生かしたイベントをほぼ毎月開催した。うち、ふるさと祭り（1月）は、農村伝統行事の「どんど焼き」を地域コミュニティ協議会と協働して行った。また、地場企業応援を兼ねて農機販売会社や食品メーカーとのコラボイベントを初めて実施し大きな集客に繋がった。

次年度についても、コロナ禍の影響を見据えつつ、直売所やレストランとも連携をより強化し各種施策を前向きに展開していくとともに、SNSのより積極的な活用等により、より市民に近い施設を目指した運営を行い、利用者数の安定的増大とともに、行政施策の市民への周知などの機能発揮に努めるものとする。

所管課による総合評価（所見）

アグリパークの設置目的及び事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。

来場者数については目標を達成できなかったものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた3月を除けば、前年度の累計を上回っていた。地域のコミュニティ協議会との協働によるイベントを実施したほか，令和元年度は新たに地元の農業関連企業や食品メーカーなどとのコラボイベントを積極的に開催し、農村地域と都市住民の交流推進に継続的に取り組んでいることを評価する。

来場者満足度は99.2%と目標を大きく上回っており、日ごろの職員の接遇や、来場者が楽しめるよう創意工夫を凝らした企画の実施などによって、高い評価につながったものと考えられる。

運営収支については、自主事業収入の減などにより予算を下回る結果となったものの、経費の節減などに努めたことで収支の改善が図られていることを評価する。

現在の取り組みをさらに発展させ、新規来場者の掘り起こしやリピーターの確保に努めるとともに、来場者が安心して安全に利用できる施設運営を継続し、引き続き多くの方に満足していただける施設となるよう取り組んでいただきたい。